

# 音楽科学習指導案（2年1組）

1 題材 構成を生かしてリズムアンサンブルの表現を工夫しよう（創作）

## 2 題材設定の理由

### (1) 教材観

#### ①学習指導要領上の位置付け

[思考力・判断力・表現力等]

A (3)創作ア 創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、まとまりのある創作表現を創意工夫すること。

B (1)鑑賞ア(ア) 曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

[知識及び技能]

A (3)創作イ(イ) 音素材の特徴及び音の重なり方や反復、変化、対照などの構成上の特徴  
ウ 創意工夫を生かした表現で旋律や音楽をつくるために必要な、課題や条件に沿った音の選択や組合せなどの技能を身に付けること。

B (1)鑑賞イ(ア) 曲想と音楽の構造との関わり

#### ②題材の価値

本題材では、身近な音素材である「ボディーパーカッション」を用いて、音を音楽へと構成する活動を通して、その面白さについて考えていく。生徒は音の重なり方やリズム、音色によって想起されるイメージが変わってくることに気付き、音の重なり方や色々な叩き方を試す中で、まとまりのある創作表現をするために思いや意図をもったり、その思いや意図を生かした音楽をつくるための知識や技能を高めたりすることができる。本題材の創作において用いる「同じリズムの反復」は、生徒にとって取り組みやすい内容である。また、対照的な2つの場面をつくるという条件によって、各要素をどのように変化させるかについて生徒に思いや意図をもたせやすい。イメージと音楽を形づくっている要素とを関わらせて考える力や、リズムを記譜したり組み合わせたりする知識や技能の高まり、身近な音素材や音楽に対して本題材で音楽的な見方・考え方を働かせ、豊かに関わる生徒の姿が期待できる。

#### ③題材の系統性

- ・第1学年では、題材「和音に合わせて旋律をつくろう」で、I－IV－V－Iの和声進行に合わせて、4分の4拍子、4小節間の創作に取り組んでいる。その際、五線譜を用いて記譜を行うために、常時活動として4分音符、4分休符、8分音符、8分休符を用いた8拍の簡単なリズム創作とリズム唱、リズム打ちに取り組んだ。
- ・第3学年では、本題材での学習を生かして、複数の声部のある旋律の創作や、対照的な構成でまとまりのある音楽の創作へとつなげていく。

### (2) 生徒観（男子18名、女子16名 計34名）

#### ①既習の学習内容や活動

- ・1月に音素材の特徴を生かした創作として、箏を用いて俳句のイメージに合った旋律をつけたり、俳句の間に効果音を挿入したりする活動を行った。
- ・5月に、「パッヘルベルのカノン」の和声進行、I－V－VI－III－IV－I－IV－Vの特質や雰囲気を感じ取り、そこからイメージできるストーリーと旋律の音の高さやリズムを関わらせて、即興的に旋律をつくる学習を行った。

#### ②本題材に関わる生徒の実態

- ・創作表現に思いや意図をもつことについて、12名の生徒が音楽の授業の中で「イメージを言葉にすること」に難しさを感じている。思いや意図をもつことは言葉にすることが全てではないが、指導者が積極的に机間指導で問い掛けながら引き出したり意味付けたりすることによって、グループ内での共感や新たな思いや意図へとつなげられるようにしていく。
- ・創作領域における知識・技能について、生徒は和音に合わせてまとまりのある旋律をつくったり、イメージやストーリーと関わらせてその旋律を変化させたりすることができる。しか

し、音楽をつくることとは別として、17名の生徒が音楽の授業の中で「楽譜を書くこと」に難しさを感じており、音符や休符の長さを比較する問題に対して完答できた生徒は15名であった。本題材では、自分のリズムをつくる際の記譜と、イメージに合わせて音の重ね方を工夫する際に知識・技能が必要となる。常時活動での基本的な知識の定着と様々な音の重なり方を試し体感することによって、記譜や音の組み合わせ方の知識や技能を習得させたい。

### (3) 指導観

- ・身体表現を伴うボディーパーカッション「ROCK TRAP (William J.Schinstine 作曲)」の映像を見ることで、リズムアンサンブルの学習への実践意欲を高められるようにする。
- ・「ROCK TRAP」の一部分を実際に合奏することを通して、その音楽の面白さがリズムや音色、音の重なりから生じていることを体感させ、題材の学習テーマにつなげられるようにする。
- ・8拍の簡単なリズムをつくる常時活動を取り入れ、生徒がリズムの創作に抵抗なく取り組めるようにするとともに、記譜の技能を高める。
- ・全員で輪をつくり、即興的なリズム演奏のリレーに取り組むことによって、様々なリズムや叩き方を試すことができるようにする。その際に、小学校学習指導要領における「問い掛けと答え」にあたる、コールアンドレスポンスのリレーも取り入れることで、後の創作において生徒が活用できるようにする。
- ・1人ずつ増えていく重ね方、1人ずつ減っていく重ね方を試すことで、音の重なり方による雰囲気の違いを知覚・感受させ、様々な重ね方を試す意欲を引き出せるようにする。
- ・全員で重ねる、一部のパートを重ねる、全休止などのアイデアは全体で共有し、各グループの活動に生かせるようにする。
- ・何回目の演奏にどのパートが重なっているのかを示す表とマグネットを掲示し、音の重なり方や音楽の流れが視覚的にわかるようにする。
- ・ホワイトボードを活用して、演奏の流れと表したいイメージが同時に見られるようにすることで、表したいイメージとリズム、音色、音の重なり方を関連付けて思いや意図をもつことができるようにする。
- ・表したいイメージを対照的なものに設定することによって、音色や音の重なり方を対照的に変化させようとする思いや意図を引き出せるようにする。
- ・発表を聴く際には、題材の学習テーマを意識させることで、リズムや音色、音の重なり方から面白さを発見することができるようにする。

### 3 題材の目標

音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら創作表現を工夫し、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。

### 4 指導と評価の計画（別紙参照）

5 本時の展開 (3 / 4)

(1) 目標

音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら、音楽で表したいイメージをもち、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。

(2) 展開

学習活動と予想される生徒の反応	指導上の留意点及び支援・評価
<p><b>1 本時の課題をつかむ。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマに合うように、叩き方やリズム、重ね方を工夫したな。</li> </ul>	<p>○創作の条件や工夫できる要素などを想起できるように、グループのテーマを確認し、前時に創作した[A]を演奏する。</p>
<p><b>課題：</b> [A]と対照的な[B]にするために、音の重なり方やリズム、音色を工夫しよう。</p>	
<p><b>2 対照的になるような表したいイメージを話し合う。</b></p> <p>○前時に決めたテーマや創作表現と、対照的なイメージを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・雨とは逆の「晴れ」の音楽にしよう。</li> <li>・どしゃぶりの「雨」だったから、降ったり止んだりする音楽にしよう。</li> </ul> <p><b>3 自分のリズムの叩き方を変えて、色々なリズムや音色を試す。</b></p> <p>○グループで音を重ねる中で、リズムの拡大・縮小や音色の変化を試す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リズムを縮小すると激しくなるな。</li> <li>・足踏みだと低く暗い感じがでるな。</li> </ul> <p><b>4 表したいイメージになるように、音の重なり方を工夫する。</b></p> <p>○イメージ全体の構成を踏まえて、対照的な[B]の音の重なり方やその後の[A]の重ね方を工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で同じリズムを叩いたり、全員で休んだりすると、事件が起きたような急激な変化を表現できるな。</li> <li>・リズムを縮小して音色を変えると、同じ重ね方をしても全く別の雰囲気になるな。</li> <li>・荒れた海の音楽には、今までの4拍子よりも3拍子が合うな。</li> <li>・また落ち着いた[A]に戻るから、[B]の最後も少しずつ落ち着かせよう。</li> </ul>	<p>○前時に設定した「雨」「火」「風」「雷」「光」「海」「山」などのテーマと、実際に創作した音楽について、真逆のイメージやストーリー、変化した姿などについて問かけ、対照的なイメージを考えられるようにする。</p> <p>○「～なって、～変化し、そして～なっていく」のような表したいイメージの文型を提示し構成をつかませることで、音の重なり方について思いや意図をもてるようにする。</p> <p>○条件として使用するリズムを[A]と同じにすることで、リズムの拡大・縮小と音色に着目して工夫できるようにする。</p> <p>○「1人ずつ増える」「1人ずつ減る」「全員で演奏する」などの試行に全体で取り組む中で、毎回違った叩き方をすることを条件とし、即興的に色々な叩き方を試し、対照的なリズムや音色を選択することができるようにする。</p> <p>○重ねる回数と誰のリズムが加わったかが分かるように、ホワイトボードとマグネットを使用して視覚化する。</p> <p>○全員で同じリズム、1人ずつ、全休止、拍子の変化などの工夫を提示し、実際に試すことでその演奏効果を味わい、より対照的なイメージに合った工夫ができるようにする。</p> <p>○リズムの拡大・縮小や、イメージに合った工夫が効果的に行われているグループに中間発表させ、その思いや意図を聴くことで、各グループの工夫に反映できるようにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>【思考力・判断力・表現力等】</b></p> <p>音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら、音楽で表したいイメージをもち、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。 (観察・ワークシート)</p> </div>
<p><b>5 本時の学習内容を振り返るとともに、今後の学習への見通しをもつ。</b></p>	<p>○次時は、イメージに近づくように音の重ね方や叩き方を追求し、発表し合ってグループごとの面白さを発見することを伝え、次時の活動への見通しがもてるようにする。</p>
<p><b>&lt;振り返り&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全員で叩く、1人ずつ叩く、全員で休む、リズムを拡大・縮小する、拍子を変える、音色を変えるなどの工夫で、表したいイメージに合った場面[A]と対照的な音楽にすることができた。</li> </ul>	

**<見方・考え方を働かせる問題解決の過程の工夫>**

- (1) 生徒の意欲を引き出す題材設定の工夫
- (2) 即興的な音の組み合わせから音楽としての意味付けや価値付けをしていく創作課題の設定。

題材「構成を生かしてリズムアンサンブルの表現を工夫しよう」(全4時間計画)

目標	音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら創作表現を工夫し、創意工夫を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。				
評価規準	<p>【知識及び技能】 音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。</p> <p>【思考力・判断力・表現力等】 音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら、音楽で表したいイメージをもち、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。</p> <p>【主体的に学習に取り組む態度】 音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かし創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。</p>				
過程	時間	目標・課題	学習活動	振り返り	評価項目 (方法・観点)
つかむ	1	<p>◎音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かし創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組もうとしている。</p> <p>ボディーパーカッションやリズムアンサンブルの面白さの秘密を探ろう</p>	<p>○ボディーパーカッションの作品「ROCK TRAP」を聴き、その一部を実際に演奏しながら音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受し、その面白さについて話し合う活動を通して、リズムアンサンブルをつくる活動に対する学習のテーマを立てる。</p>	<p>☆リズムアンサンブルやボディーパーカッションは、旋律や音の高さがなくても、音の重なり方やリズム、音色の工夫で、面白く、かっこいい演奏をすることができるのだな。</p>	<p>【主体的に学習に取り組む態度】 音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成に関心をもち、それらを生かし創作表現を創意工夫する学習に主体的に取り組むことができる。 (観察)</p>
題材の学習テーマ：音の重なり方やリズム、音色を工夫して、リズムアンサンブルを作ろう					
追求する	2 (本時はその2)	<p>◎音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら、音楽で表したいイメージをもち、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。</p> <p>テーマを表現するために、音の重なり方やリズム、音色を工夫しよう。</p> <p>Aと対照的なBにするために、音の重なり方やリズム、音色を工夫しよう。</p>	<p>○8拍のリズムを即興的につくる活動や、コールアンドレスポンスの活動を通して、様々なリズムや音色を体験する。</p> <p>○自分のリズムをつくり、グループでその重ね方を色々と試す。</p> <p>○グループごとにテーマを決め、そのテーマのイメージに合うように音の重ね方を工夫する。</p> <p>○先に作ったAの部分と対照的になるように、表したいイメージを考える。</p> <p>○表したいイメージに合うように、音の重なり方やリズム、音色を工夫する。</p>	<p>☆ボディーパーカッションは、叩き方によって音色が変わり、声や足踏みを組み合わせて様々な音色のリズムをつくることができる。それらをもとにして、音の重ね方を工夫することで、テーマをもとにしたイメージが表現できた。</p> <p>☆全員で叩く、1人ずつ叩く、全員で休む、リズムを拡大・縮小する、拍子を変える、音色を変えるなどの工夫で、表したいイメージに合った場面Aと対照的な音楽にすることができた。</p>	<p>【思考力・判断力・表現力等】 音の重なり方、リズム、音色を知覚・感受しながら、音楽で表したいイメージをもち、音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現を工夫し、どのように音楽をつくるかについて思いや意図をもつことができる。 (ワークシート・観察)</p>
まとめ	1	<p>◎音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。</p> <p>リズムアンサンブルを発表し合って、それぞれのよさや面白さを見つけよう。</p>	<p>○A-B-Aを通して練習し、表したいイメージに近づくように、音の重なり方やリズム、音色などについて創作表現を追求する。</p> <p>○グループごとの発表を聴き、題材の学習テーマに合ったそれぞれのよさや面白さを発表し合う。</p> <p>○題材の学習を振り返り、今後の学習に生かす。</p>	<p>☆音の重なり方やリズム、音色を変化させることで、雰囲気の違いを表現したり、対照的な音楽にしたりすることができた。</p> <p>☆今後取り組む学習でも、音の重なり方やリズム、音色を意識して取り組み、イメージを表現できるようにしたい。</p>	<p>【知識及び技能】 音素材の特徴、反復、変化、対照などの構成を生かした創作表現をするために必要な課題に沿った音の組合せ方、記譜の仕方などの技能を身に付けて音楽をつくることができる。 (発表)</p>